Ｖ部　建設・整備の経過

18. 建設・整備の経過

18.1 各年度の建設・整備の推移

10年あまりの長期にわたって,60万平方メートルに近い建築面積と250ヘクタールの広大な敷地の環境整備とを，およそ1,200億円の投資によって行ったこの大学の施設建設，環境整備について，詳細に記すことは困難である。以下は，主として「筑波大学年次報告書」にもとづき，ごく概略をまとめたものである。

1. 昭和48年度以前

キャンパスで最初に建設された施設は，最北端の建設管理事務所（現在倉庫）で，昭和45年８月の完成である。この事務所は，建設の前進基地として，敷地条件の調査，測量等のためにマスタープランの決定以前に先行的に建設されたもので，したがってその後の本格的建設に支障のないように，一番奥につくられたのである。

本格的建設は47年度予算からで，48年５月には体育グランドおよび合宿所が完成，また大学開設に合せて，同年11月，当面大学本部となる臨時庁舎がつくられた。47～８年度の予算は約55億円である。47年９月には，実質的なマスタープランであるTUV200が決定され，49年４月の学生受入れに向けて，体育芸術専門学群棟（体芸中央棟)，総合体育館，体芸図書館，南地区食堂の各建物が，体芸地区に集中して建設が一斉に始められた。

2. 昭和49年度

49年度は実質的開学の年であり，学生は第一学群400名，医学専門学群100名，体育専門学群240名，計740名，教官定員は189名，事務職員313名，合計約1,200名が体育芸術専門学群棟，その他前述の建物施設を利用して教育を実施した。(研究施設は皆無に等しかったので，筑波においてはほとんど行われなかった。)

49年度の予算は急に増大して，医学関係を除いて92億円，病院31億円(一部)，環境整備33億円で，合計156億円であった。その主要な施設は，第一学群Ⅰ期，加速器センター，医学学群棟，体育学系棟，自然系学系Ⅰ期，学生宿舎Ⅱ期，などである。また，年度後半は，オイルショックによる物価高とう，資材および労働力の不足によって，工事は遅れがちとなり，建物の質も若干低下せざるを得ない苦境に立たされ，また予定した施設の一部が後年度に繰り延べになった。

環境整備については，昭和49年度初頭の時点では，南地区，体育グラウンド，合宿所の周辺の地区が整備された。年度半ばに体芸中央棟，体芸図書館，南地区食堂，総合体育館で取囲まれる地区のペデストリアン・デッキ，パーキングエリア，造園等が整備された。平砂宿舎周辺の整備も年度半ばに完成し，宿舎と体芸学群棟を結ぶ小径も舗装された。南コアを取囲むループ道路の一部，および東大通りからの導入路も年度半ばに完成した。共同溝の工事は，建物の建設作業に先行してなされ，この時点ではエネルギープラント以南の主線と，副線の大部分が完了している。

3. 昭和50年度

昭和50年度は，学生は第一学群，医学専門学群，体育専門学群は第２年次になるので740×2＝1，480名，新たに第２学群400名，芸術専門学群70名，以上学群学生1,950名。それに博士課程学生222名，修士課程学生40名を合せて，計2,212名。教官は新任，東京教育大学よりの移行教官229名で，計417名。事務職員は588名。合計約3,200名になる。

これに対して施設の方は，49年度の体芸中央棟，体芸図書館，総合体育館，南地区食堂の利用につづいて，体育科学系棟，第一学群棟Ⅰ期分，医学専門学群棟が50年度当初から，また，第一学群棟Ⅱ期分，保健管理センター，農林技術センター，自然系学系棟の一部などが８月以後利用可能となり，又，この８月以後ループ道路西側の第一学群より南の部分が使用可能となった。

50年度の工事費の総額は約213億円に達し，全期間を通じて最大となった。主要な施設は，附属病院，大学会館，第一学群Ⅱ期，第二学群Ⅰ期，芸術専門学群，教育関係センター，自然系学系Ⅱ期，本部棟Ⅰ期，エネルギー・プラントⅠ期，学生宿舎Ⅲ期など目白押しである。

環境整備は，第一学群周辺の地区を中心に行われた。

4. 昭和51年度

大学の施設・環境整備も，中盤期にさしかかって，既に，概成達成期までに建設予定の施設の約３分の１が，昭和51年度当初より使用可能となり，51年度末には，50パーセント強の施設の建設が完了している。開学当初より，教育関係施設（学群施設）の建設を，研究関係施設（学系・センター施設）より優先先行してきていたが，51年度には，第二学群の施設も完成し，ようやく，学系・センター施設の建設も軌道にのった形となってきている。

51年度当初から第二学群棟Ⅰ期分，計算機センター，学生宿舎800戸（増設分），医学食堂等が利用可能となり，また，夏以後，本部管理棟，芸術専門学群棟，文科系修士棟，外国語センター，教育機器センター，大学会館，附属病院，看護婦宿舎，自然系学系棟などの全体または一部が漸次利用可能になってきている。また，ループ道路の中地区，第一学群前庭，平砂学生宿舎中庭，病院前庭も並行して利用出来るようになった。

51年度における施設･環境整備のもう一つの特色は，環境整備の進展に伴う，緑化事業などの推進である。開学当初より進められてきた農林技術センター演習林部門によるキャンパス緑化用樹木の育成も順調に進行し，構内の主要道路の街路樹の定植，南学生宿舎庭園植栽，病院前庭植栽の一部などの緑化が育成樹木を利用して進められた。また，新しく認められた施設整備費による緑化予算によって，第一学群周辺の植栽が実施されるなどキャンパスは一挙にうるおいを増すことになった。

また，学内交通環境の改善を目的とした交通実態調査が交通問題小委員会と施設計画WGとによって12月一斉に実施され，交通対策の実施に向けての第一歩を踏み出したのも51年度の大きな成果である。

51年度の工事予算は約180億円で，前年度より若干下ったとはいえ，いぜんとして1大学の予算規模としては最大級のものである。主要なものは，第二学群棟II期，自然系学系棟III期，人文・社会学系棟，生物・農林学系棟I期，医学系学系棟，修士棟I期，本部棟II期，学生宿舎IV期などである。

5. 昭和52年度

52年度当初の施設整備率は，概成達成期の約50%であった。しかし，年度後半に至って，約65%の整備率となり，構成人員充足率と施設整備率とは全体的な比率においては，ほぼ同一値となってきた。

学群施設では，年度末に第三学群棟の約1/2の完成をみ，開設済の各教育施設は，一応人員に対応した施設整備がなされた。学系施設では，年度半ばに，医学学系棟，生物農林学系の約1/2，人文社会学系棟，年度後半に，人間系学系棟の約1/2，芸術学系棟が完成し，工学系学系を除く各学系が一応対応する施設を利用出来る状況になった。

その他，研究関係施設として，核物性プロジェクト研究棟，国民体力プロジェクト研究棟，農林技術センター，RIセンター，分析センター，工作センター等，又，教育施設の一部である一般体育館，格技体育館が年度末に完成している。宿舎関係については，学生宿舎第一段階の整備完了目標の最終560戸が一ノ矢地区に完成し，附属病院の600床完全稼動の為の看護婦宿舎100人分についても年度末に完成した。

環境整備については，キャンパス内主要道路の全面整備および予定の約2/3の駐車場の整備，本部管理棟周辺を主とした造園整備，これらにともなう植栽緑化が進められている。

52年度の工事費は約150億円で，それによって建設される主要なものは，第三学群I期，自然系学系IV期，人間系学系I期，芸術学系，生物・農林学系II期，医学図書館，RI，分析，工作各センター，共同研究棟，学生宿舎V期などで，研究関係の施設建設が中心になっている。

6. 昭和53年度

53年度の施設・環境整備の特色は，施設充実の面で，部分整備で一時保留されていた施設の完成型整備と後送りになっていた施設の整備が手がけられたことと，建物周辺の屋外環境の整備が施設・植栽・付帯の休憩施設・案内誘導施設などの面まで広く手がけられたことである。又，東京教育大学からの移管施設のうち，下田臨海実験センター，管平高原実験センター，石打研修所の利用増加，用途充実等に伴う施設充足に着手したことも新たな特色となっている。

施設整備の状況は，52年度末に構成人員充足率と施設整備率とが全体数としての比率で，ほぼ同率の約65%

となり，必ずしも構成が一致してはいないが一応両方の足並みがそろう形となってきた。

53年度についてもこの関係はほぼ保たれ，一部施設の暫定利用を含めて，前年度末に準じた状況である。52年度末から53年度にかけて完成し，利用に供された主な施設の概要は次のとおりである。学群施設では，年度当初に第三学群の全体完成をみ，教育関連施設については，未開設のものを除いて，一応の完成をみたことになる。

学系施設では，第三学群と同時進行していた工学系学系の一部が年度当初に完成し，量のうえでは完成時の15分の１という規模であるが，一応，各学系がそれぞれの対応する施設を持つことになった。又，年度末には，生物農林学系，体育科学系，工学系学系の一部も完成した。その他，教育関連施設の一部である一般体育館(医学地区)，課外活動施設の文化系サークルが年度末に完成している。宿舎関係については，学生宿舎，看護婦宿舎とも，前年度末に一応の完成をみており，53年度は，外国人教師宿泊棟（世帯型６戸・単身型６戸）の完成をみている。

環境整備については，前年度に引続いて駐車場の整備が進められ予定の約４分の３が完成した。又，キャンパス計画の主題でもある歩・車分離のための歩行者専用路（ペデストリアンウェイ）の南北方向の主軸が一応利用可能の状態となった。

植栽緑化についても，前年度に引き続いて第一学群周辺，体芸地区，医学地区，学生宿舎周辺の環境緑化等が進められ，これまでの新開地的な雰囲気を脱し，キャンパスらしい屋外空間を形成し始めている。又，休憩施設等の屋外家具類，案内誘導標示板など屋外環境を構成する小規模要素の設置が本格的になされたことも一つの特色となっている。

53年度の工事予算は約80億円で，ようやく百億円の大台を割り，建設がピークを越えたことを示している。この年建設された主なものは，中央図書館，第三学群II期，工学系学系棟，生物・農林学系III期，体育学系II期，修士棟II期，医療短大Ｉ期，動物実験センター，屋内プール等である。

7．昭和54年度

54年度の施設・環境整備の特色は，53年度に着手し，本年度中間期に完成を見た工学系学系及び人間学系をもって，学群施設，学系施設の全てが第１次整備を完了したことと，環境整備の主役ともいえる，第二学群，第三学群，文理両修士棟，人間学系棟，人文社会学系，中央図書館によって囲まれた中央広場が一部(滝のモール）を残して完成したことである。

53年度末から54年度にかけて完成し，利用に供された主な施設の概要は次のとおりである。学系施設では，工学系学系の主要部分である12階建の研究棟及び別棟を含む実験棟が年度中期に完成し，人間学系もほぼ同時期に完成した。教育関係施設では，文科系修士棟の一部が年度当初に，また，理科系修士棟の一部が中期

に完成した。その他，年度当初に屋内プール，格技体育館，医学地区一般体育館が利用できる状況になった。また，年度末には中地区の第２一般体育館も完成した。医療技術短期大学部看護学科分は年度当初に学生受入れが可能となった。また，年度中期に着工した医科学修士棟も年度末に完成した。

その他，前年度末に着工した下田臨海センターの実験研究棟及び宿泊棟，菅平高原実験センター実験研究棟，石打研修所研修施設がそれぞれ年度中期に完成し，また，年度中期に着工した学術情報処理センター及び附属駒場中・高等学校技術工芸教室も年度末に完成した。

環境整備関係では，中央広場が完成し，周辺施設の有機的結合を強めこの地区のアカデミック・コアとしての性格を一層明確にし，本学のキャンパスライフの中心としての利用が期待される。前年度に引き続いて屋外家具類，案内誘導標示板などの屋外環境構成要素の設置も進められている。

54年度の施設予算は，前年よりさらに半減して約40億円となり，この年度の建設が終れば，一部の施設を残して，当初目標はほぼ達成された状態となる。主要施設は，大規模なものは大講堂（大学会館）のみで，他は医科学修士棟などの小規模な施設である。

8．昭和55年度

55年度の施設環境整備の特色は，整備の達成期に入ったため全学的な環境整備の充実が図られ，より豊かな研究・教育の場が創り出されている。また，当初計画に含まれていない施設の第１弾として，プラズマ研究センターが実施にうつされ，更に，高エネルギー研究所内に，本学専用施設として，粒子線医科学センターが建設された。

55年度中に完成し，利用に供された主な施設の概要は次のとおりである。

学系施設では，特定学系に所属しないユニークな研究用施設として共同研究棟が年度中期に完成し，プロジェクト研究等の用に供されることとなった。教育関係施設では，医療技術短期大学部の２期工事が年度末に完成し，医学地区の初期整備の完成を見ている。共同利用施設では，年度中期に講堂が完成し，国立大学の基準施設としては初めてのものとして，利用を開始している。附属病院の200床増床に伴う増築も年度末に完成し，これに関連して，看護婦の増員が予定され，そのための看護婦宿舎40戸の増設が年度末に完成している。病院勤務の非常勤医員のための非常講師等宿泊施設も年度中期に完成している。

環境整備関係については各学群周辺の造園緑化も進められ，研究・教育環境の充実を図っている。54年度も以前から引き続いて，案内誘導標示板，屋外家具類などの屋外環境構成要素の増・新設も進められている。

55年度の予算はごく小規模なもので，一般大学並みになったといえる。施設としては，附属病院の増築以外は，プラズマ研究センターの工事を発足させた程度で，他は小規模なものである。

この特別会計予算とは別に一般会計予算による小規模施設整備も51年度から逐次増加してきており，特に，

附属学校関係，遠隔地施設関係について，かなりの予算比率を占めている。

9. 昭和56年度

56年度の施設整備の計画方針は，実質的に第1次の施設整備計画（当初計画）を54年度に達成した形となり，54年度以後第2次整備段階に入っており，新しい長期的展望にもとづく施設整備計画の立案が必要となっている。しかし，大学全体にわたるアカデミックプランの長期計画は，なお，成案を得るまでには至っておらず，これに伴い，施設整備計画も，新規組織増に伴うもの，2年次計画の2期分等小規模のものが実施されただけである。

56年度に利用可能になった施設は，前年度からの引続きのプラズマ研究センターの他，RIセンター増築など6件である。また，建設中のものは，4件である。

10. 昭和57年度以降

57年度以降は，教育組織の定員増に対応して，芸術専門学群棟，国際関係学類棟，理科系修士棟などの建設が行われたほかは，大学会館の増築がなされた程度である。

以上各年度を通して実施されてきた施設建設について，当初計画の実現の状況をまとめたものが右に示す**Tab. 18.1.1**である。全体としてはおおむね計画通り達成されているが，共通・文化関係施設のみ達成率が低い。なお，ここに示した面積は，当初計画の項目分類に対応させるため，やや強引に割振ったものであり，数値そのものの精度はあまり高くないので注意されたい。

Tab. 18.1.1 施設整備達成状況

施設の種類	A 計画面積*1	B 実施面積*2	B/A 達成率
	千m²	千m²	%
学　　群*3	108	114	106
大学院・学系*3	147	137	93
特別プロジェクト	3	3	100
各種センター	57	65	114
生活福祉施設	10	11	110
居住施設	105	100*4	95
医学関連施設	103	102	99
本部管理部門	20	22*5	110
小　　計	553	543	98
その他(交通・文化)	37	22	59
合　　計	590	565	96
当初計画にないもの	—	8*6	—

*1.「筑波大学の創設準備について」P. 73による。
*2. 昭和46年～58年度の施設整備予算によるもの。
*3. 医学関連施設を除く。
*4. 看護婦宿舎，レジデント宿舎を含む。
*5. 実験廃棄物処理施設の増加による。
*6. 粒子線医科学，プラズマ研究両センター，国際関係学類。

18.2 計画・建設の態勢

筑波大学の施設建設，環境整備を担当し実施してきたのは，大ざっぱにいえば大学施設部とそれとは独立の施設環境計画チームであり，主として後者が企画，計画段階を，前者が建設，管理段階を分担したのである。通常の移転統合など，わが国の国立大学の施設建設は，大学施設部が一元的に行っているのに比較するとユニークな態勢といえるが，このような計画と建設を分離して担当するシステムは，アメリカの大型大学などではむしろ一般的な姿である。とくに筑波のように，ぼう大な建設工事を実施する場合には，とかく建設現場の面倒に追われて，企画，計画という長期的にはより重要な活動がお座なりになることは必至だからである。

施設整備関係の大学としての意志決定の機関としては，筑波大学開設以前は昭和46年10月に東京教育大学に設置された「筑波新大学開設準備委員会」のもとにおかれた施設専門委員会がこれにあたった。この間，これと並行して，文部省に同じく46年10月に設置された「筑波新大学創設準備会」の中の施設部会も計画内容の審議を行っている。48年11月の大学開設と同時に，大学に「施設環境委員会」が置かれ，翌49年５月には「施設環境計画審議会」に改組され，主要な建設期の中枢的な役割を果した。同審議会は57年５月縮少改組され「施設委員会」となった。なお，執行の最高責任者として，施設担当副学長が置かれている。

施設環境計画チームは，筑波大学の建設が実質的に本決りになった昭和46年８月に発足した。チームのメンバーは東京教育大学の専門分野の教官，大学施設部のスタッフおよび文部省教育施設部工営課のスタッフそれぞれ２～３名が集って構成された。初期はもっぱらマスター・プランの作成にあたったが，具体的な建設段階に入ると，建築の基本計画をはじめとして，設計事務所と協力して基本設計までまとめ，環境整備についても，おおむね基本設計までを担当した。また，次項に述べる各年度の暫定利用計画の立案，建設計画の根幹である概算要求項目の立案についても昭和54年度まではその作業内容に含まれている。メンバーは期間を通じてほぼ６～７名で，最盛期でも10残程度の少人数であった。

施設，環境整備についての実施設計，工事発注，現場管理という現業については，最初は東京教育大学がこれにあたったが，大学開設と同時に筑波大学臨時建設部が設置され，医学部門関連施設を除くべくすべての建設を担当した。医学部門については，49年から52年までの最盛期の４年間，文部省の工営課がこれを担当している。臨時建設部は52年の東京教育大学の閉学とともに，施設部へと変更された。施設建設のピーク年度には200億円を越す工事量を，100名足らずの人数で乗り切ったが，その後順次縮少して，現在50名程度となっている。

18.3 施設暫定利用計画

大学の学群，学系，センター等の各組織機関は，一斉ではないが49年から52年始めまでにほぼ開設され，ただちに活動を開始する。そして人員をはじめ活動そのものはその後徐々に拡大していくものである。

一方，施設建設をこれに合せて，小規模なものから順次拡大していく，ということは現実には不可能で，せいぜい2回から3回に分けて建設を行う程度である。したがって，一通りの施設が建設されるまでは，内容に対して大きすぎる施設を持つ組織機関と，逆に組織はできても施設の未建設のものとが生じる。

この組織と施設建設とのズレに対応するためには，一定の期間，本来のその施設の利用者以外の組織がこれを一時的に利用することが必要となる。筑波大学のような多くの組織が短期間につくられる場合には，この一時的施設利用による対応を，計画的に効率よく行うことが極めて重要な条件となる。このような一時的施設利用を計画することを「暫定利用計画」と呼び，昭和50年から54年までの5年間，半年を1区切りとして，約10回の計画をたて，これにもとずいて施設利用を進めてきた。

49年度は体芸中央棟ただひとつでスタートしたわけであるが，50年度にはいくつかの施設が利用可能となった。一方組織的にも多くの学群，学系，センター等が発足したが，それらに対応する施設がすべて完成したわけではない。そこで暫定的に他の目的で建てられた施設を使用する必要が全学的に生じた。50年度は，施設暫定利用計画を定めて，その後の1年間の各部局の居所を決めるという，これも本学独自のシステムが本格的に開始された年度である。暫定利用そのものには多くの困難な問題があるが，これなくしては大学のスムーズな活動は不可能である。

51年度の前期は，前年度後期よりも特に学系組織の拡大による研究用空間の需要が大幅に増大したにもかかわらず，施設的にこれを満足させるものが非常に少く，教官には大変な不便をしのいでいただかざるをえなかった。後期については，文科系修士棟・自然系学系棟（研究棟）等の施設を学系用に暫定配分出来る状態になり，いく分か教官用施設がうるおうこととなった。

52年度当初において，施設の約50%が利用可能となったが，機構・人員の面では，第三学群のスタートをみたため，主要機構としては，修士の一部と医療技術短大を残すのみとなって，学生で約60%，教職員で約75%の充足率となっており，依然として，暫定措置が必要であり，特に，第三学群関連施設については，充足率0%にとどまり，この点を最重点事項とした暫定利用計画を立案した。

Tab. 18.3.1は，施設の暫定利用がもっとも巾広く行われた，51年後期から52年前・後期にかけての状況を若干簡略化して示したものである。

53年になると状況は大分好転し，工学系の学系と図書館にかかわる暫定利用を残すのみとなり，54年には中央図書館が3月に，工学系学系棟が9月に完成したため，ごく一部の特殊なものを除いて，暫定利用は前期をもって終了した。しかしこの間，多い場合には5回も使用施設が変更になった組織もあり，とくに研究の実施という面で障害とならざるを得なかったのである。

Tab. 18.3.1 施設暫定利用計画（51～52年度）

□ は本来利用に至ったもの。

施設＼利用期間		51年度後期	52年度前期		52年度後期
第1学群棟		第1学群、第1事務区、(自然系学系)	同左		同左
		人文系4学系	同左	環境MC(新)	同左
人文社会学系棟	新				人文社会5学系
					人間系3学系
					社工学系
文科系修士棟		地域MC、経営MC	同左		同左
					教育MC(新)
		人間系3学系、社会学系	社会学系	人間系3学系	
第2学群棟		第2学群、第2事務区	同左		同左
			第3学群、第3事務区(新)		同左
自然系学系棟		自然系4学系、RI、分析、工作各センター	同左		同左
		生物学系、低温センター	生物学系	低温センター	
生物農林学系棟	新				生物農林4学系
低温センター棟	新				低温センター
体育科学系棟		農林3学系、体育学系	農林3学系	体育学系	同左
体育芸術中央棟		基礎工3学系、電情学系、社工学系	基礎工3学系、電情学系	社工学系	
		体育学群、体育MC、体芸事務	同左		同左
		学長、総務部、企画調査室	同左		
理科系修士棟	新				基礎工3学系、電情学系
本部庁舎	一部新	経理、学務、学生、研協各部、課程長 大学公開、入試管理、学生担当各室	同左		学長部局、事務局
仮庁舎		水理実験センター、農林技術センター	水理実験センター	農林技術センター	同左
水理実験センター棟	新				水理実験センター
加速器センター棟		加速器センター	同左		同左
教育関係センター棟		外国語、教育機器、計算各センター	同左		同左
大学会館		大学会館	同左		同左
芸術専門学群棟		芸術専門学群、芸術学系	芸術学群、芸術学系、芸術MC(新)		同左
医学専門学群棟		医学専門学群、動物実験センター	同左		同左
		基礎医学系、社会医学系	同左		
医学系学系棟	新				医学系3学系
附属病院		臨床医学系	同左		
		病院	同左		同左
体芸図書館		図書館	同左		同左

18.4 建設施設一覧

Tab. 18.4.1 筑波大学建設施設一覧表　　昭和45年～58年度

(昭59年3月末現在)

名　　称	予算年度	構造階数	建築面積	延面積	完成年月日	備　考
			m²	m²		
管理事務所・附属室	45単, 47単	S－1・他	416	416	45.8.31	
合宿所・運動場施設	47単	SR－2・他	841	1,547	48.5.20	
体芸中央棟	47～48債, 48単	SR－7	4,326	18,026	49.5.8	
体芸図書館	〃	SR－4	1,264	3,264	49.4.10	
総合体育館	〃	SR－4－1	3,192	6,280	49.4.15	
平砂学生宿舎・同共用棟	48単	R－4・他	5,884	16,378	49.4.10	470戸
体芸地区食堂	〃	R－3	602	1,214	49.9.10	
エネルギー・プラント（中）	〃	R－3	1,831	3,260	49.9.10	
農場施設－Ⅰ	〃	S－2	1,176	1,259	49.9.10	
臨時庁舎・倉庫	〃	S－2・他	646	767	48.11.30	
育苗施設	〃	S－1	146	146	49.1.15	
加速器センター	48～49債	R－9	1,883	3,115	50.6.30	
第一学群棟－Ⅰ	48～49債	R－5	4,716	11,762	50.3.15	
体育科学系棟－Ⅰ	49単	R－6	777	5,510	50.3.20	
医学専門学群棟－Ⅰ	〃	R－4	1,871	6,415	50.3.20	
エネルギー・プラント（医）	〃	R－2	2,753	2,972	50.3.25	
平砂・追越学生宿舎	〃	R－4・他	4,872	17,435	50.3.25	964戸
エネルギー・プラント・附属施設	〃	R－2・他	681	1,377	50.3.29	
運動場施設－Ⅱ	〃	S－1	140	140	50.3.30	
農場施設－Ⅱ	〃	S－1	1,230	1,230	50.6.20	
保健管理センター	〃	R－2	553	1,189	50.5.31	
体育センター・体育系サークル会館Ⅰ	〃	R－2	848	1,610	50.6.30	
医学専門学群棟－Ⅱ	〃	R－4	1,066	3,372	50.6.30	
自然系学系棟－Ⅰ	〃	R－3	596	1,925	50.6.30	
第一学群棟－Ⅱ	49～50債	R－5	3,349	11,598	50.7.30	
第二学群棟－Ⅰ	〃	R－5	3,392	12,900	51.3.15	
教育関係センター－Ⅰ	〃	R－4－1	784	3,002	51.1.25	計算機
エネルギー・プラント（中）	50単	R－2	619	991	51.3.22	
文化系サークル会館－Ⅰ	〃	R－3	394	1,007	51.3.31	
医学地区食堂	〃	R－2	836	1,270	51.1.31	
追越学生宿舎・同共用棟	〃	R－5・他	5,573	17,124	51.3.10	800戸
自然系学系棟－Ⅱ	49～50債	SR－8	1,527	8,940	51.6.30	
大学会館	〃	R－4	1,792	8,099	51.6.30	
附属病院	49～51債	SR－7.12.1.他	7,877	52,058	51.6.21	600床
芸術専門学群棟	50単	R－4	1,509	5,181	51.6.30	
本部管理棟－Ⅰ	〃	R－4	1,189	4,006	51.6.30	
文科系修士棟－Ⅰ	〃	R－4	1,132	4,393	51.6.30	
実験廃水処理施設（中）	〃	R－1	2,061	2,061	51.5.30	

名　　称	予算年度	構造階数	建築面積	延面積	完成年月日	備　考
			m²	m²		
実験廃水処理施設（医）	50単	R－1－1	185	1,220	51.5.30	
看護婦宿舎－Ⅰ	〃	R－5	553	2,162	51.6.30	80名
教育関係センター－Ⅱ	〃	R－5	1,569	5,608	51.6.30	外国語・教育機器
第二学群棟－Ⅱ	50～51債	R－4	3,497	13,154	52.2.10	
一ノ矢学生宿舎・共用棟	51単	R－4～SR－8	6,749	24,080	52.3.31	1,000戸
本部車庫	〃	S－1	425	425	52.3.31	
体育系サークル会館－Ⅱ	〃	R－2	540	1,110	52.3.21	
農場施設－Ⅲ	〃	S－1	2,135	2,135	52.3.31	
看護婦宿舎－Ⅱ	〃	SR－8	235	1,705	52.3.10	62人
医学系学系棟	50～51債	SR－9－1	2,849	24,390	52.7.31	
生物・農林学系棟－Ⅰ	〃	SR－8	1,698	8,522	52.6.30	
人文・社会学系棟	〃	SR－8	2,086	14,009	52.9.10	
本部管理棟－Ⅱ	51単	SR－8	366	4,552	52.9.10	
自然系学系棟－Ⅲ	〃	R－3	837	1,855	52.3.31	
理科系修士棟－Ⅰ	〃	R－5	1,004	3,494	52.8.15	
低温センター	〃	R－1	1,285	1,285	52.3.31	
水理実験センター	〃	R－2・S－2	2,144	2,498	52.3.31	
一般体育館（中－Ⅰ）	〃	S－1	1,541	1,541	52.6.30	
病院特殊診療棟	〃	R－2	1,013	1,489	52.6.30	
医学系学系・RI研究棟	〃	R－4	232	1,287	52.3.31	
医学系図書館・臨床講堂	51～52債	R－3	1,930	4,340	52.8.31	
自然系学系棟－Ⅳ	〃	SR－9	1,657	8,340	53.3.31	
人間系学系棟－Ⅰ	〃	R－5	1,681	6,194	53.1.20	
芸術学系棟	〃	R－6	2,640	7,536	53.2.20	
第三学群棟－Ⅰ	〃	R－5	2,992	12,056	53.3.31	
一ノ矢学生宿舎	51－0－100	R－5	2,493	10,097	53.3.31	558戸
生物・農林学系棟－Ⅱ	52単	R－5	746	3,619	53.2.20	
看護婦宿舎－Ⅲ・Ⅳ	〃	R－8	561	3,220	53.3.31	100戸
客員研究員等宿泊施設	〃	R－3	320	892	53.3.31	20戸
共同研究棟C	〃	R－3	595	1,752	53.3.31	
共同研究棟B	〃	R－2	500	999	53.3.10	
農林技術センター	〃	R－2	2,921	3,489	53.3.31	
RIセンター	〃	R－2	1,089	1,577	53.3.31	
分析センター	〃	R－2	436	819	53.3.31	
格技体育館	〃	R－2	2,322	4,611	53.3.31	
工作センター	〃	R－1	771	771	53.3.31	
第三学群棟・工学系学系棟－Ⅱ	52～53債	R－4	2,488	7,880	53.4.30	
中央図書館	〃	R－5	3,498	14,960	54.3.31	
生物・農林学系棟－Ⅲ	〃	SR－8	1,342	7,405	54.3.10	
第三学群棟－Ⅱ	〃	R－4	1,854	8,934	54.3.10	
動物実験センター	〃	R－5	1,046	4,272	54.3.10	
体育学系棟－Ⅱ	〃	R－6	952	5,184	54.2.20	
外国人教師宿泊棟	53単	R－3	300	901	54.2.20	
工学系学系棟－Ⅳ	〃	R－4	1,028	4,040	54.3.20	

名　　称	予算年度	構造階数	建築面積	延面積	完成年月日	備　考
			m²	m²		
文化系サークル棟－II	53単	R－3	322	1,053	54.3.10	
医療技術短期大学部－I	〃	R－5	1,089	3,436	54.3.31	
一般体育館（西）	〃	S－1	1,218	1,218	54.3.31	
屋内プール	〃	R－2－1	2,382	2,778	54.3.31	
球技体育館	〃	S－1	2,011	2,011	54.3.31	
文科系修士棟－II	〃	R－4	483	1,842	54.3.31	
工学系学系棟－III	52～53債	SR－12－1	1.342	19,631	54.9.29	
理科系修士棟－II	53単	R－5	988	3,904	54.7.31	
工学系学系棟－V	53～54債	R－4	2,754	5,836	54.9.29	
人間学学系棟－II	〃	R－5	1,401	6,601	54.10.31	
下田臨海実験センター・実験研究棟・宿泊棟	53単	R－3	567	1,152	54.10.15	
菅平高原実験センター・実験研究棟	〃	R－2	288	639	54.9.29	
一般体育館（中－II）	54単	S－1	1,219	1,219	55.2.28	
医科学修士棟	〃	R－3	391	1,234	55.3.31	
学術情報処理センター	〃	R－3	332	998	55.3.25	
講堂	53～54債	SR－4	1,820	5,077	55.6.30	
文科系理科系共同研究棟	54単	R－6	951	4,761	55.7.15	
非常勤講師等宿泊施設	〃	R－6	251	1,293	55.10.31	
附属病院病棟	54～55債	R－6	757	5,591	56.3.31	200床
看護婦宿舎－V	55単	R－5	280	1,135	56.3.31	40人
医療技術短期大学部－II	〃	R－2	804	1,580	56.3.31	
粒子線医科学センター	〃	R－2－2	693	1,198	56.3.31	当初計画外
クラブハウス	〃	R－2	358	500	53.3.31	
プラズマ研究センター	55～56債	SR－3－1	1,984	3,916	57.3.30	当初計画外
RIセンター－II	56巣	R－2	760	1,012	57.3.23	
実験廃棄物管理棟	55巣	R－2	150	301	56.8.31	
弓道場管理棟	56単	S－1	173	173	57.1.30	
バイオトロン施設	〃	R－1	113	113	57.3.25	
農林技術センター中型農期格納庫	〃	S－1	314	314	57.3.25	
理科系修士棟－III	57単	R－5	386	1,075	58.3.22	
芸術専門学群棟－II	〃	R－4	581	2,254	58.3.25	当初計画外
本部倉庫	〃	S－1	498	498	57.11.30	
大学会館（国際交流会館）	57～58債	SR－4	1,420	2,970	58.8.10	
国際関係学類棟	58単	R－4	429	1,575	59.3.31	当初計画外
アイソトープセンター（生物農林RI研究棟）	〃	R－2	352	580	59.3.24	
工作センター材料調整室	〃	S－1	118	118	59.2.10	